

## 町の現状と課題

### 1. 町の立地特性

#### (1) 町の立地特性

松田町は、総面積 3,775ha の町域を有する町で、足柄上郡のほぼ中央部に位置し、北部は丹沢大山国定公園に一部指定されている西丹沢山系のふもとに位置し、南部は酒匂川流域がひろがる豊穡な足柄平野に位置している。

東京都心部からは約 70km 圏、横浜からは約 50km 圏の距離にあり、東名高速道路や国道 246 号などの広域幹線道路、小田急小田原線と JR 東海御殿場線の鉄道路線を有するなど、交通アクセスの利便性に優れた場所にあり、これまで、県西部地域の交通の要衝地として、足柄上郡の経済や行政の中心としての役割を担ってきた。（「松田町第 5 次総合計画」より）

また、町の中心部には、富士急湘南バスの高速バスターミナルがあり、京都や大阪方面、成田空港など、遠方への交通アクセスも整備されている。



図 松田町の位置（町 HP より引用）

(2) 町の土地利用状況

町の土地利用状況を見ると、町の南に位置する松田駅・新松田駅の周辺が商業地として利用され、その周辺に住宅地が広がるほかは、農地や林地が大半を占め、町の北部は丹沢山系南麓に属する山間地域がひろがっている。

(国土地理院「20万分1土地利用図(1982～1983年)」より)

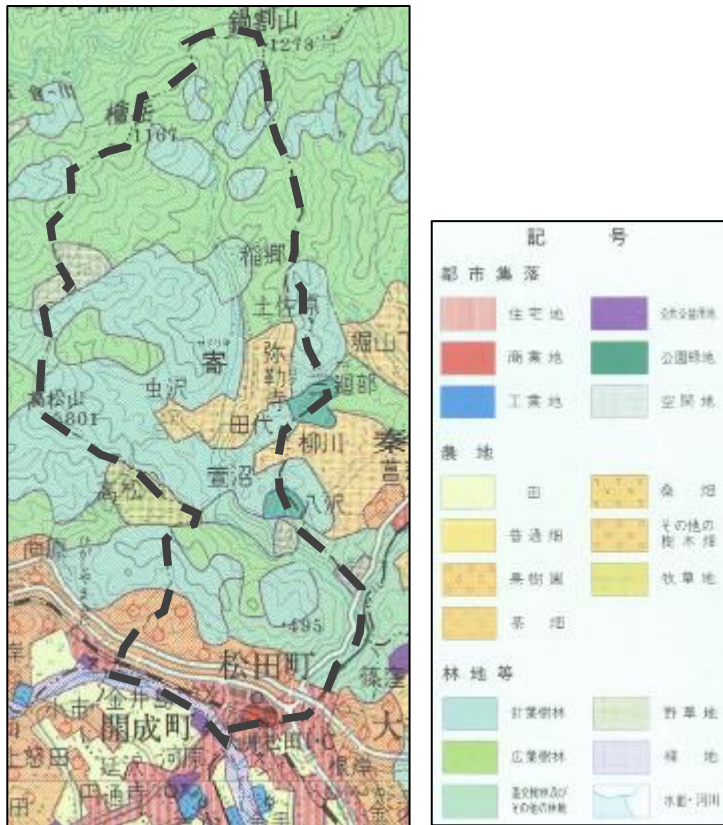


図 町の土地利用状況図

町における平成22年時点の土地利用状況を見ると、「山林」が78.2%、「農地」が8.5%と、自然的土地利用が土地利用の約9割となっており、都市的土地利用としては、「住宅用地」が3.3%、「公共・公益用地」が0.9%、「商業業務用 施設用地」が0.6%、「工業用地」が0.3%であるなど、利用可能な面積が限られている。

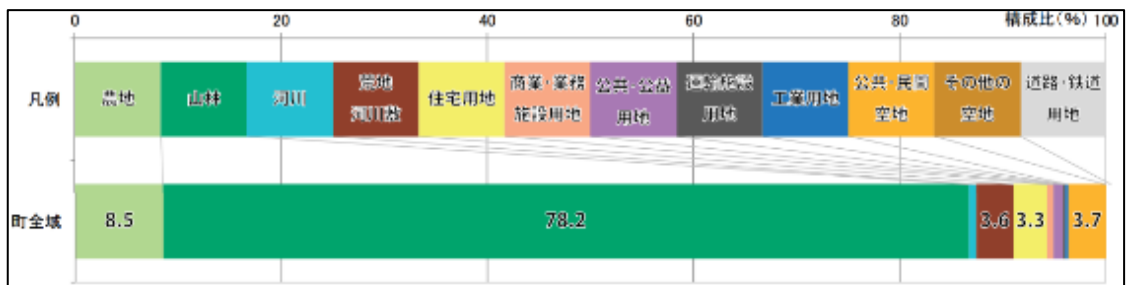


図 土地利用状況の割合 (平成22年 都市計画基礎調査結果)

### (3) 男女共同参画関連施設の立地状況

ここでは、男女共同参画に関する町の相談窓口となる施設（役場、寄出張所）と女性の活躍を後押しする子育て支援関連施設を「男女共同参画関連施設」とし、立地状況を確認した。

町の窓口となる施設は2か所あり、南部の駅周辺には松田町役場が、北部の寄地区に寄出張所が存在する。また、町内の子育て支援関連施設の内、町立幼稚園は松田幼稚園と寄幼稚園の2園であり、南部・北部に一カ所ずつある。町立小学校で開設されている学童保育室も同様に、南部・北部に一カ所ずつある。また、私立松田さくら保育園は南部にある。

その他の子育て支援関連施設として、子育て支援センター及びファミリー・サポート松田が、南部の駅周辺に立地する。

また、その他、子どもに関わる施設が、町民文化センター（図書館）、子どもの館、自然館が南部に立地する。

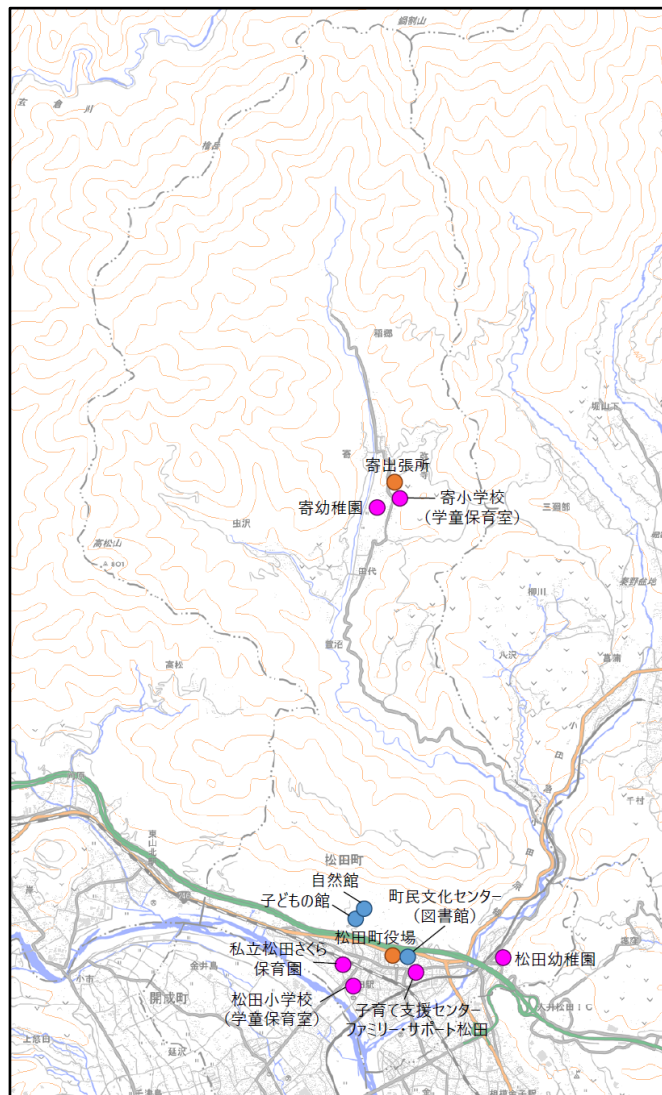


図 男女共同参画関連施設の立地状況

(参考:「松田町公共施設等総合管理計画」H29.3、「松田町子ども子育て支援事業計画」H27.3)

## (4) 地価

町における不動産取引価格（土地（住宅地））をみると、県平均および全国平均よりも低く 41,826 円/m<sup>2</sup> である。近隣市町村と比較すると、人口増加が著しい開成町では 68,000 円/m<sup>2</sup>、人口流入出の多い小田原市は 78,749 円/m<sup>2</sup> と、どちらも松田町よりも高く、松田町は周辺市町村と比較して地価が低いことが見受けられる。

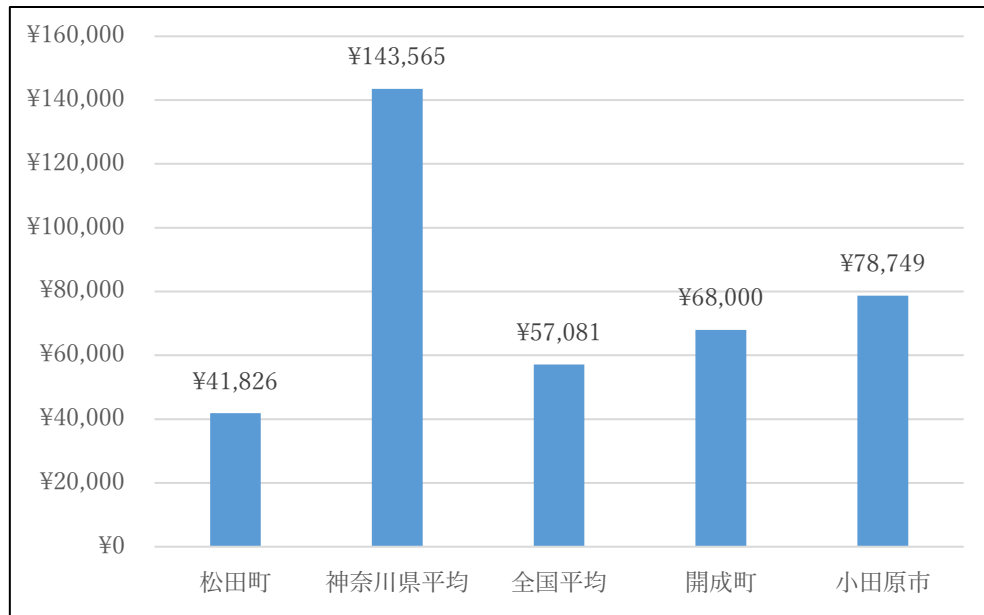


図 不動産取引価格（2015年）

（出典：RESAS 国土交通省「土地総合情報システム 不動産取引価格情報」2015）

## 2. 町の人口推移と就業状況

### (1) 町における人口推移とその特徴

#### 1) 町における人口推移と将来人口

町はこれまで首都近郊の居住地域として発展し、1990年代半ばにかけて人口増加傾向が見受けられたが、1995年の13,270人をピークに減少傾向に転じ、2015年には11,171人となった。これは、県全体の人口推移と比較し、やや早く減少傾向に転じたことになる。今後は一層急激な人口減少が進むと予測されており、2040年には7,055人まで減少するとされる。

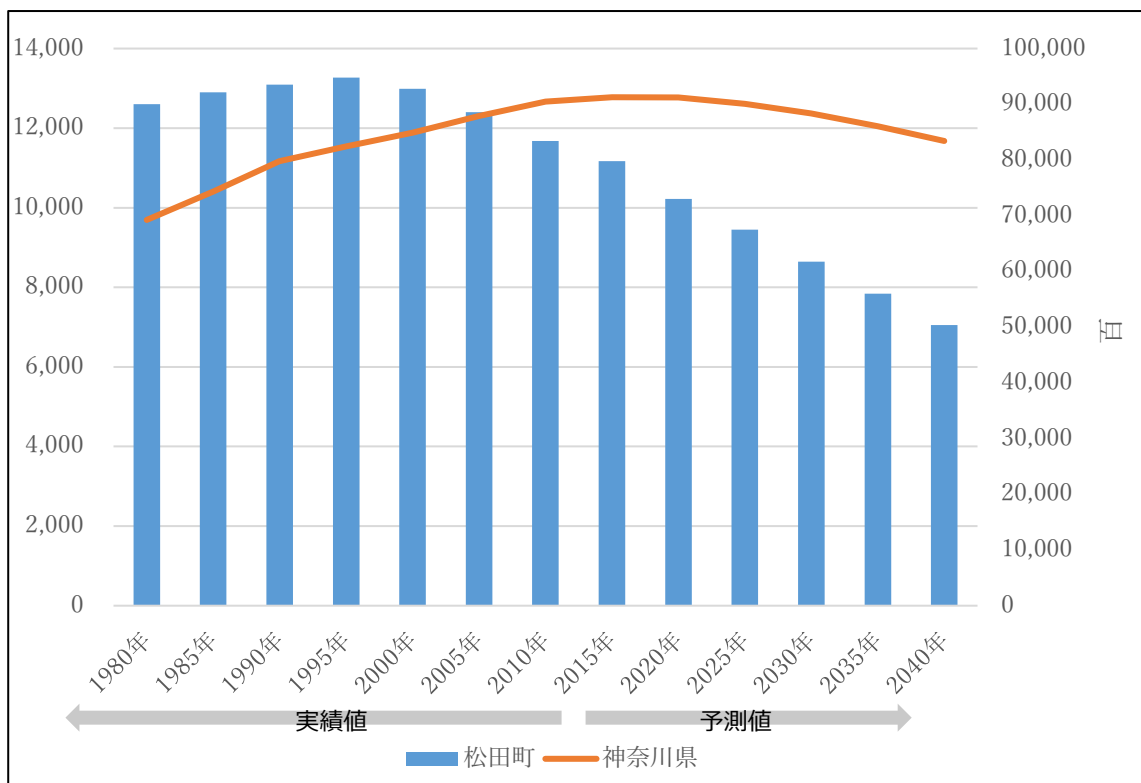


図 松田町及び神奈川県の人人口推移と将来予測 (1980年～2040年)

(出典：国勢調査 (1980年～2015年)、人口問題研究所 (2020年～2040年))

## 2) 年齢3区分別人口の推移

1980年から2015年にかけての年齢3区分別の人口推移をみると、年少人口（15歳未満）が減少傾向にある一方、老年人口（65歳以上）が年々増加傾向にあり、少子高齢化の進行が顕著に見受けられる。

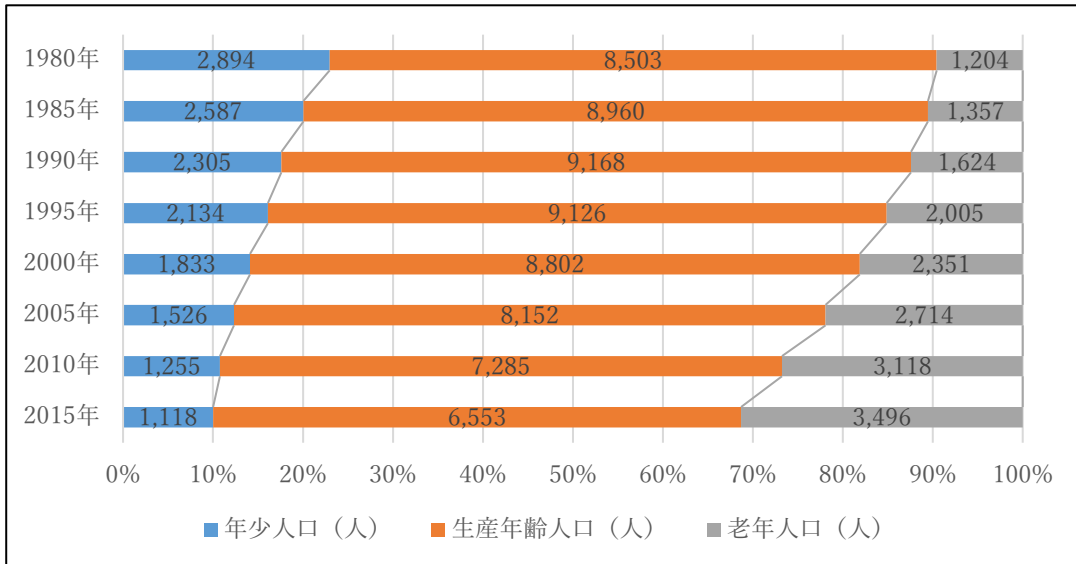


図 年齢3区分別人口の推移

(出典：国勢調査（1980年～2015年）)

## 3) 若年女性人口の推移

町における15歳～39歳の女性人口を確認すると、1980年には2,476人であったが、2015年には1,267人となっており、35年間で半数近く減少している。これは、町全体人口の減少状況と比較しても、顕著である。

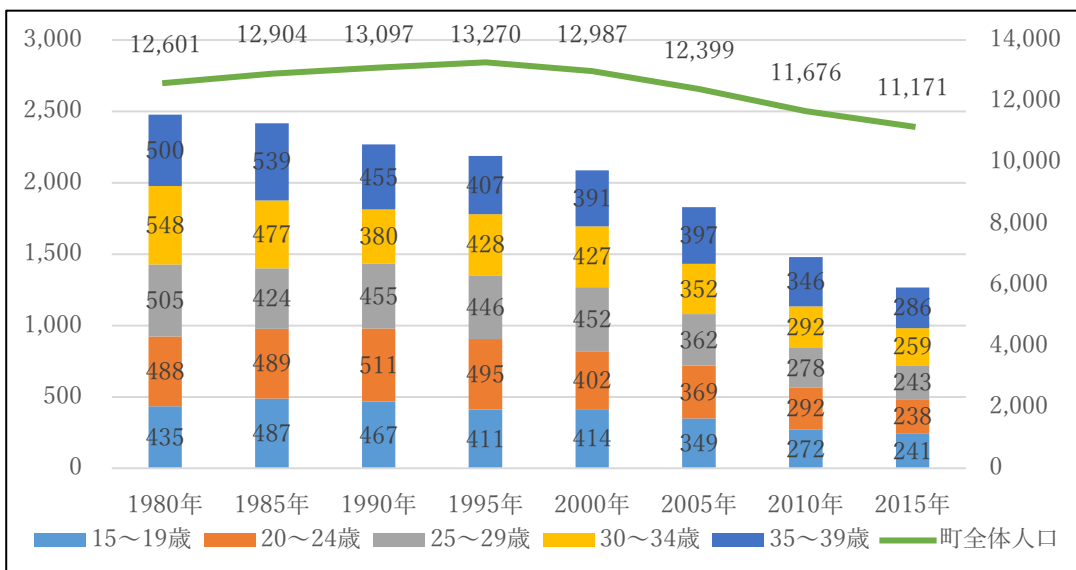


図 女性人口の推移

(出典：国勢調査（1980年～2015年）)

## (2) 人口の流入出状況

町への社会増減を確認すると、2016年における転入者数は337人、転出者数は441人であり、その内訳は、どちらも過半数が近隣市町村へ移動している。

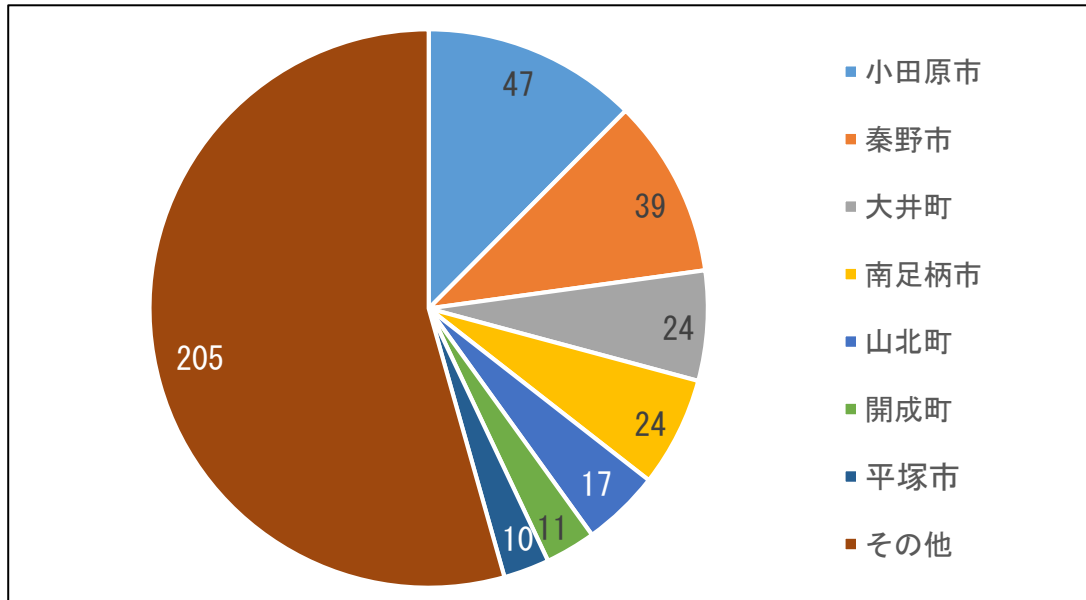


図 松田町への転入者数の内訳 (数字は人数)

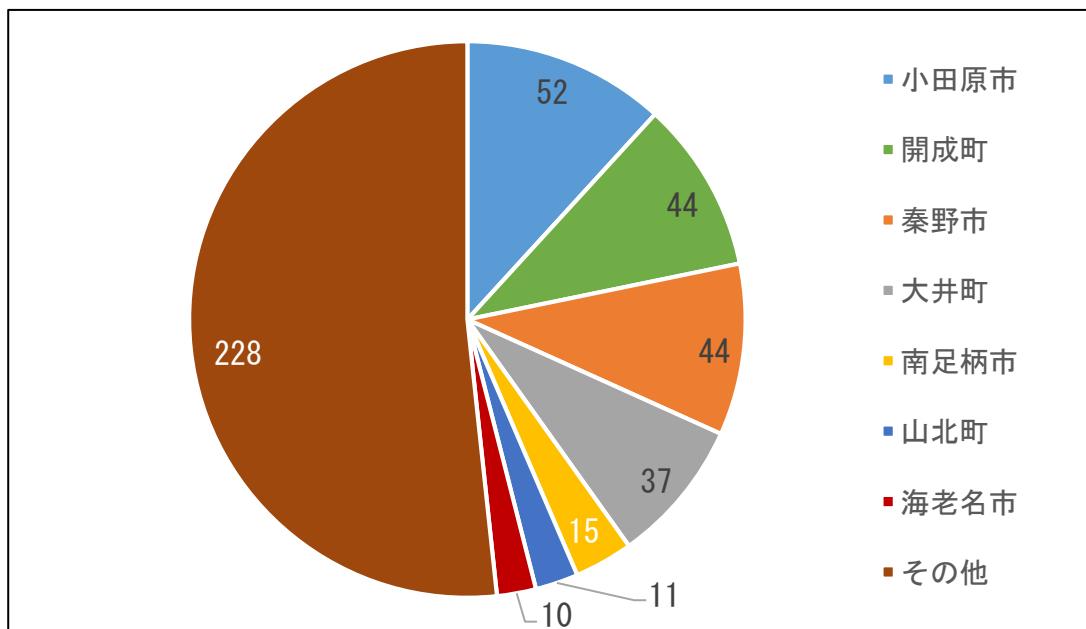


図 松田町への転出者数の内訳 (数字は人数)

(出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」2016年)

町の年齢階級別の純移動者数を時系列で確認すると、「20～24歳→25～29歳」や「25～29歳→30～34歳」の時期に、どの時代も転出者が増える傾向にあるが、特に2000年以降はその転出者の増加が顕著に見受けられる。また、2005年以降は、「15～19歳→20～24歳」から「30～34歳→35歳～39歳」の年齢にかけて若者世代が大きく減少している。

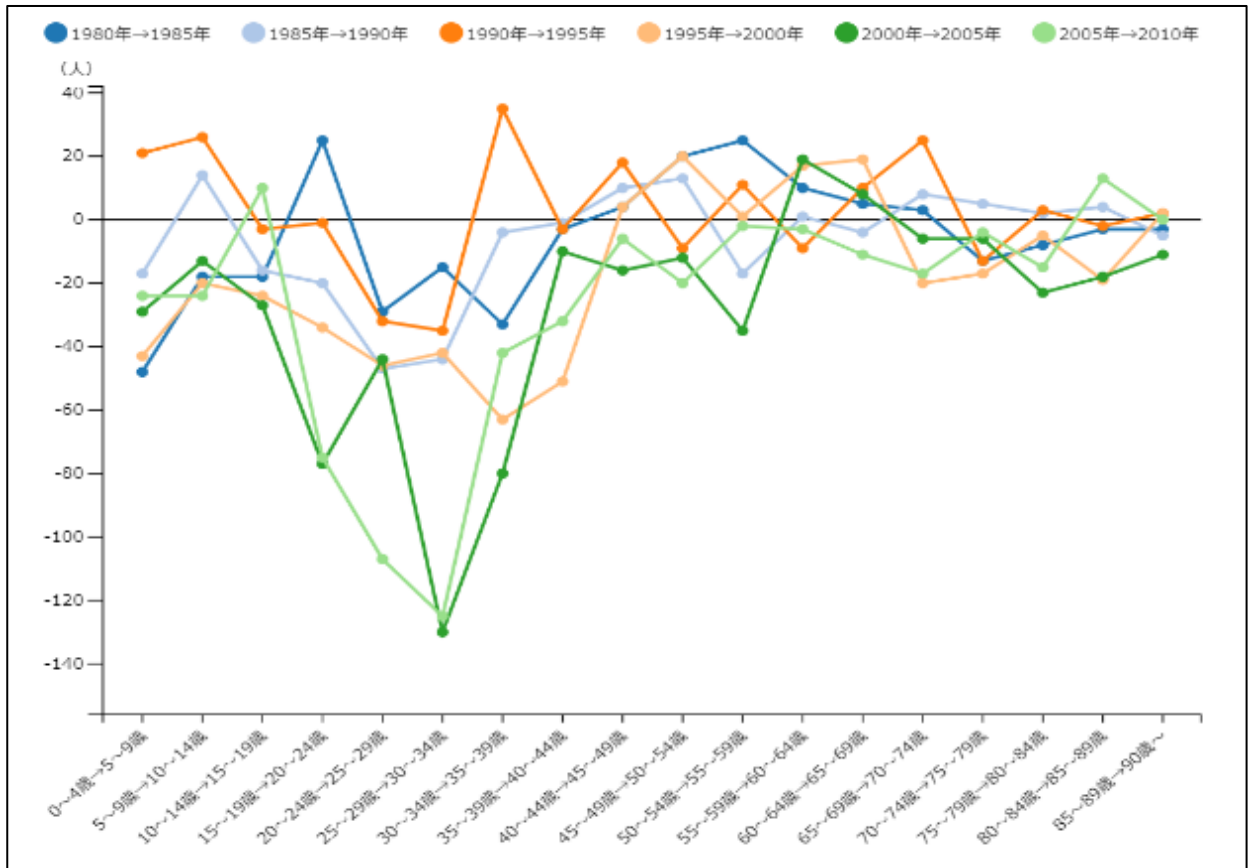


図 年来階級別の純移動者数の推移

(出典：総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成)



## (3) 合計特殊出生率の状況

町の2006年から2015年における合計特殊出生率を確認すると、町では年度ごとに出生率の変動が見受けられるが、全国・県はともに毎年微増傾向にある。また、どの年度においても、全国平均及び県平均と比較し、町の出生率は低くなっている。

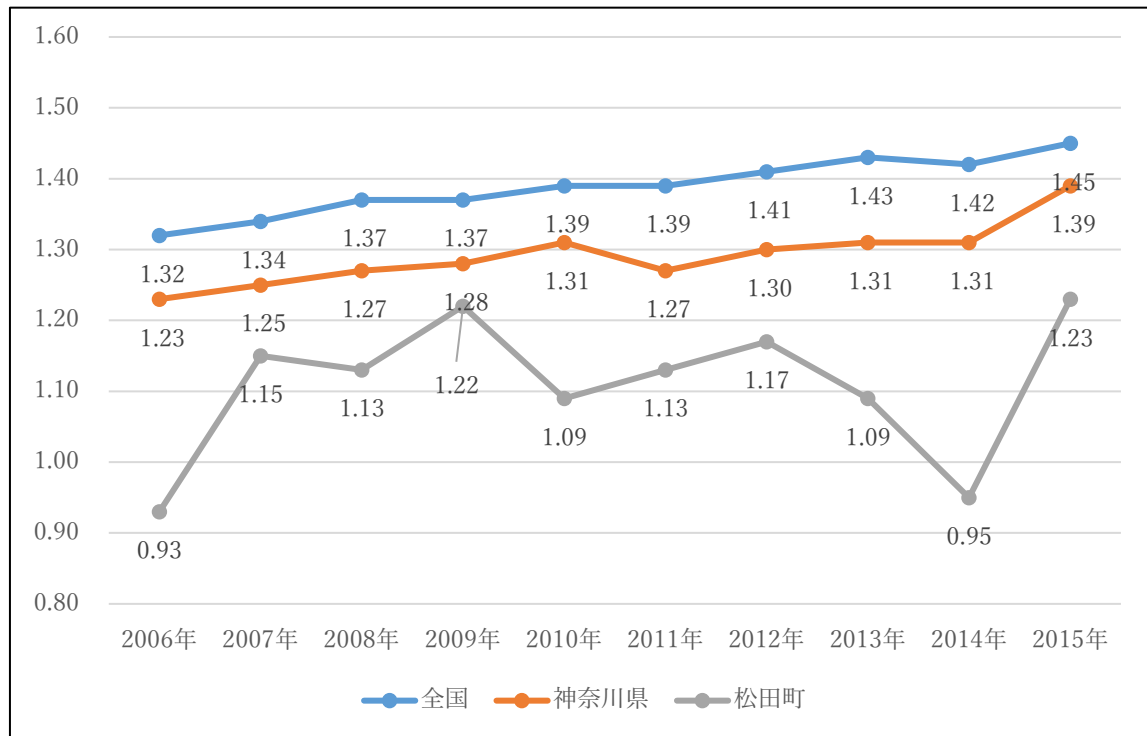


図 全国・神奈川県・松田町における合計特殊出生率の年次推移（2006～2015年）  
 （出典：神奈川県「平成26年神奈川県衛生統計年報」、厚生労働省「人口動態統計」）

## (4) 女性の未婚率の状況

町の1990年から2015年の女性の未婚率の推移を確認すると、2010年にかけてどの年齢区分においても増加傾向にあったが、2015年には「30～34歳」を除く3つの年齢区分で未婚率が減少した。

県と比較すると、2005年までは県と同程度の未婚率で推移していたが、2010年には、「25～29歳」と「30～35歳」の年齢区分で、町の未婚率が高くなり、2015年の「30歳～34歳」では、町の未婚率43.6%に対し、県は34.5%と10ポイント程度の差が生まれている。

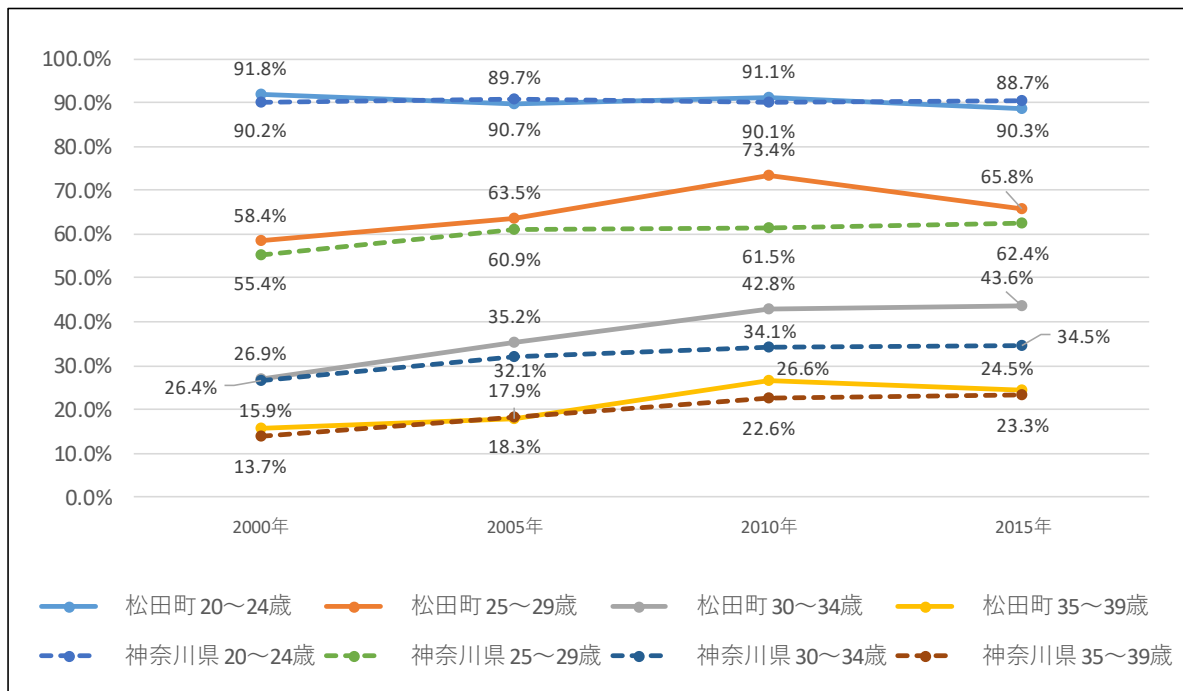


図 女性の年齢区分別未婚率の推移

(出典：国勢調査(2000年～2015年))

## (5) 町の労働力状況

2015年の町の年齢区別の労働力率\*を確認すると、男性は「25～29歳」以降は、90%以上で推移する一方、女性は「25～29歳」の85.2%をピークに、出産・育児期に減少した後、「35～39歳」以降に微増する「M字カーブ」の傾向がみられる。

県の労働力率と比較すると、男性はどの年齢区分も殆ど同じ数値で推移するが、女性は、「30～34歳」から「55～59歳」にかけての労働力率の低下が緩やかである。

\*：15歳以上人口に占める労働力人口（就業者+完全失業者）の割合

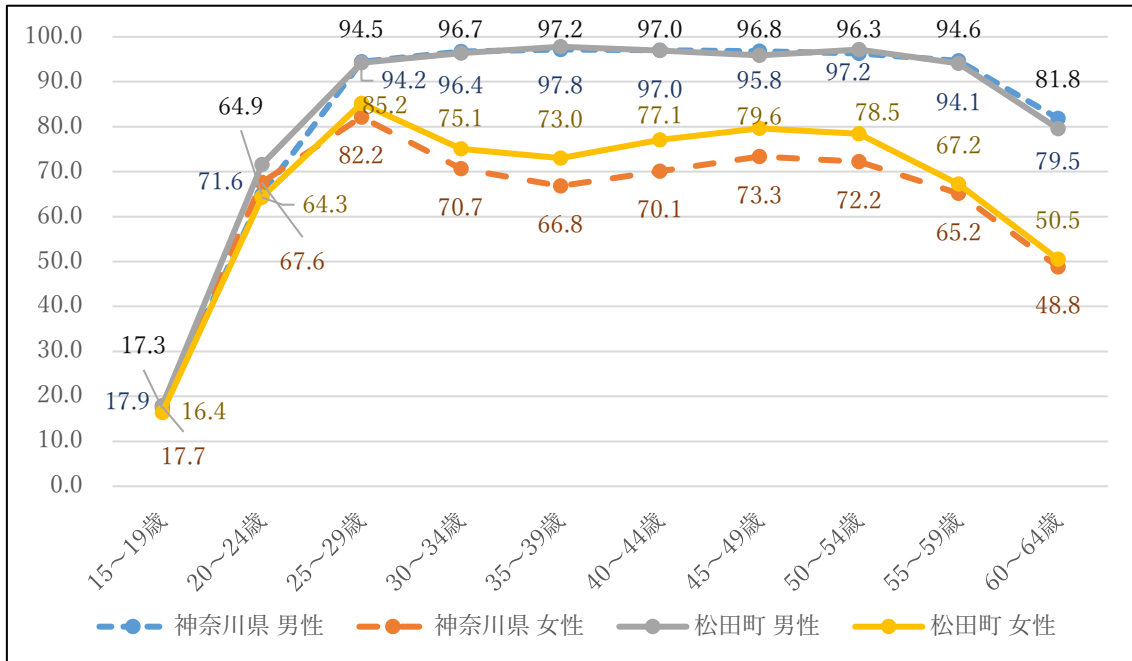


図 町の性別・年齢区別の労働力率（2015年）

（出典：国勢調査（2015年））

女性の活躍や定住化の促進の視点で、町の立地状況や人口推移、就労状況等を整理すると、町における現状・課題と優位性は以下のとおり整理できる。

◆町の現状・課題

- ・ 町域の大半を山林が占めるため、利用可能な土地が制限されること
- ・ 人口減少や少子高齢化、若い女性の流出が顕著であること
- ・ 合計特殊出生率や女性の未婚率が高いこと

◆町の優位性

- ・ 都心への交通アクセスが良く、乗降客数の多い駅を有していること
- ・ 豊かな自然環境があること
- ・ 地価（不動産取引価格）が周辺市町村に比べて低いこと